

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年十二月度 入選句（投稿総数三千九十三句・小中学投句数二千五百九十句）

特選

選者 説田 祐子

秋晴れにみんななで俳句よみあげる 大垣市 大角 咲良(小六)

澄み切った秋晴れの日、作者は学校の授業としてむすびの地記念館辺りの吟行をしたのでしうか。もしそうだとしたら記念館の辺りの秋の様子や芭蕉の俳句にふれてきた俳句をみんなで発表し合う。いかにも俳句の町大垣にふさわしい句だと思えます。机上で考えた俳句以上に臨場感があふれ、生き生きとした俳句だったことでしょう。もし、記念館の辺りのことであつたら芭蕉さんも喜んでいたことでしょう。

君を待つ冬の一時 あたたかい 美濃加茂市 長瀬 右京(中二)

一読した瞬間、思わず、にこととしたというか私も心が温かくなりました。「君って誰のこと？ひよっとしたら彼かな？彼女かな。それとも普通の友達かな」とも思いながら読みました。しかし、相手が誰であつても待つ相手があることは嬉しいことです。寒さが身に染みる冬の一時、約束した相手のことをいろいろ考えているうちに寒さどころか温かくなってくる。嬉しいことですね。その気持ちはよくわかります。人を待つときの気もちがよく伝わってくるほのぼの俳句です。

手ぶくろを選んで学校さあ行こう 大垣市 平田 ひなの(小五)

寒さが厳しい時期になりました。ましてや朝早く登校する作者には手袋はなくてはならないものです。ややもすると登校することさえも渋りがちな朝の気持ちは「手ぶくろを選んで」とあり、「学校さあ行こう」と詠み切つているところがいいですね。寒い朝にも元気をもらえる一句です。

秀逸

こたつさんねむるころにねともだちね 大垣市 おがわ さつき(小一)

しろうさぎはしつていくよみみたてて 大垣市 きむら みゆ(小一)

ザクザクとしも柱だねおどつちやう 大垣市 廣瀬 光雅(小三)

ぼしよう像秋空高く笑みこぼる 大垣市 吉田 知暉(小六)

秋もみじ私を囲んでおどつてる 大垣市 伊藤 眞鈴(小六)

つうがくろきゆうにさいたよひがんばな 大垣市 中川 あき(小一)

通学路見渡す限り稲の海 大垣市 河原 智華(中一)

雪の上親子の足跡つづいてる 美濃加茂市 長谷川 加苗(中二)

あせかいてごほうびうれしいおおそうじ 大垣市 しみず けいた(小二)

あたたかいこたつはぼくのひみつきち 大垣市 酒本 峻太郎(小三)

しちごさん今日はわたしはおひめさま 大垣市 恩田 華捺子(小一)

入選

ヒガン花静かなはかにおくり物	大垣市	深尾	結月(小五)
食たくをえがおにさせるくりごはん	大垣市	愛甲	真緒(小五)
秋の夜しずかにくれてさみしそう	大垣市	清水	もも(小三)
くりごはん黄色い宝石かがやくよ	大垣市	酒本	峻太郎(小三)
帰り道おかえりなさいとおでんかな	大垣市	森内	悠央(小三)
こたつから頭と手がでカメみたい	大垣市	加藤	心羽(小三)
いいにおいおでんのなべがよんでいる	大垣市	金森	公佑(小三)
子どもづれ秋の川ゆくコイのむれ	大垣市	大橋	晴月(小六)
たもってちいさなむしとうんどうかい	大垣市	みき	あおね(小一)
ほがたれた大いそがしだこんばいん	大垣市	さわ	ゆうき(小一)

入選

うんどう会やっぱり母さん声でかい	大垣市	古橋	隆之介(小三)
秋の風おち葉をおとしさっていく	大垣市	岩田	実乃(小四)
芭蕉像冬の光に細める目	大垣市	三宅	伶波(小六)
登下校もみじの道の中をゆく	大垣市	市川	璃乃(中一)
吐く息に色がついた冬の朝	美濃加茂市	藤吉	沙羅(中三)
七輪で焼かれてふくらむもちと笑み	美濃加茂市	佐光	亮哉(中三)
サンタさんうちにくるのはパパサンタ	大垣市	山田	伊緒(小三)
雪だるまいっぱい作り家族だね	大垣市	生駒	七夢(小三)
いつてきますげんかんあけたら白い息	大垣市	井上	尚也(小四)
うす氷サクツパリツとリズム踏む	大垣市	西内	達也(小五)

選者吟

赤き頬登校班の息白し
 祐子